

地域の憩いの場になっている札幌市内のカフェ
＝北区の「カフェ自休自足」



地域の憩いの場として住民が食事やお茶を楽しみながら交流する、札幌市内各地の「コミュニティカフェ」が、24日にネットワーク組織「Hokkaido（北海道）コミュニティ cafe（カフェ）クミアイ」を設立する。札幌では初の試みといい、約20店が参加を予定。共同イベントや勉強会を開きながら、地域活性化や経営の安定を目指す。

（小倉敦）

「カフェ」連携 地域元気に

市内で組織設立

2009年から3年間、道産食材を使うことなどをテーマに開催してきた「コミュニティカフェ」の参加店が、同会設立の母体になる。会は「食や文化を通じて地域の縁を広げること」を目的とし、①人と人との交流、出会いをつくる②できる範囲で道産食材を使う間、道産食材を使うことなどを入会の条件とする。入会は無料で、行事の際などに参加費を集める。市内だけでなく、近郊の店も入会できる。

北区の「カフェ自休自足」の南ゆきさんは、設立発起人の1人として「カフェ同士の横のつながりをつくり、新たなヒントを得たり、経営の悩みなども話せたら」と語る。同会は参加店のほか、運営に協力する個人会員や、年間10万円以上の協賛会員も募っている。24日は設立記念パーティーを開く。問い合わせは、南さか 764・4224 へ。

共同イベント、勉強会企画